

| | |
|-------|-----|
| 都道府県名 | 佐賀県 |
|-------|-----|

学校の概要（平成15年4月現在）

| | | | | | | |
|-----|-------------|-----|-----|------|-----|-----|
| 学校名 | 伊万里市立伊万里中学校 | | | | | |
| 学 年 | 1 年 | 2 年 | 3 年 | 特殊学級 | 計 | 教員数 |
| 学級数 | 4 | 5 | 6 | 1 | 16 | 30 |
| 生徒数 | 152 | 182 | 204 | 6 | 544 | |

研究の概要

1. 研究主題

| |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・主題 「主体的に、そして、ともに学び、生きる力を高める生徒の育成」 基礎・基本の確かな定着を図り、個の可能性を引き出す指導法の工夫 ・主題設定の趣旨 学習習慣の確かな定着のうえに基礎的・基本的事項の定着と学習意欲の喚起を図る手だてを工夫し、一人一人に確かな学力が身につく授業を展開することによって主体的な学習へとつなげ、学力の向上をめざす。 |
|--|

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

| |
|---|
| <p>全学年、全教科において、生徒一人一人の確かな学力の向上をめざし、指導方法改善の具体的な取組や手だてを検討し実践する。特に、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3年生・数学 生徒に対する実態調査の結果、学力差が激しい学年であるので、学級を基礎コースと標準コースに分けた習熟度別少人数授業を年間を通して行い、きめ細かな指導の充実を図る。 ・1年生・数学 生徒の理解の状況に差が出やすい教科であるため、週に一度TT授業を行い、基礎的・基本的事項の定着を図る。 ・2年生・英語 生徒の学習意欲を喚起し、基礎的・基本的事項を身につけさせるために、JTEとのTTによる個に応じた指導を週に1回実施する。 ・3年生・社会 自ら学び、自ら考える力を育むために、課題学習を実施する。この際、複数の教師で支援する必要があるために、TT授業を行う。 |
|---|

(2) 年次ごとの計画

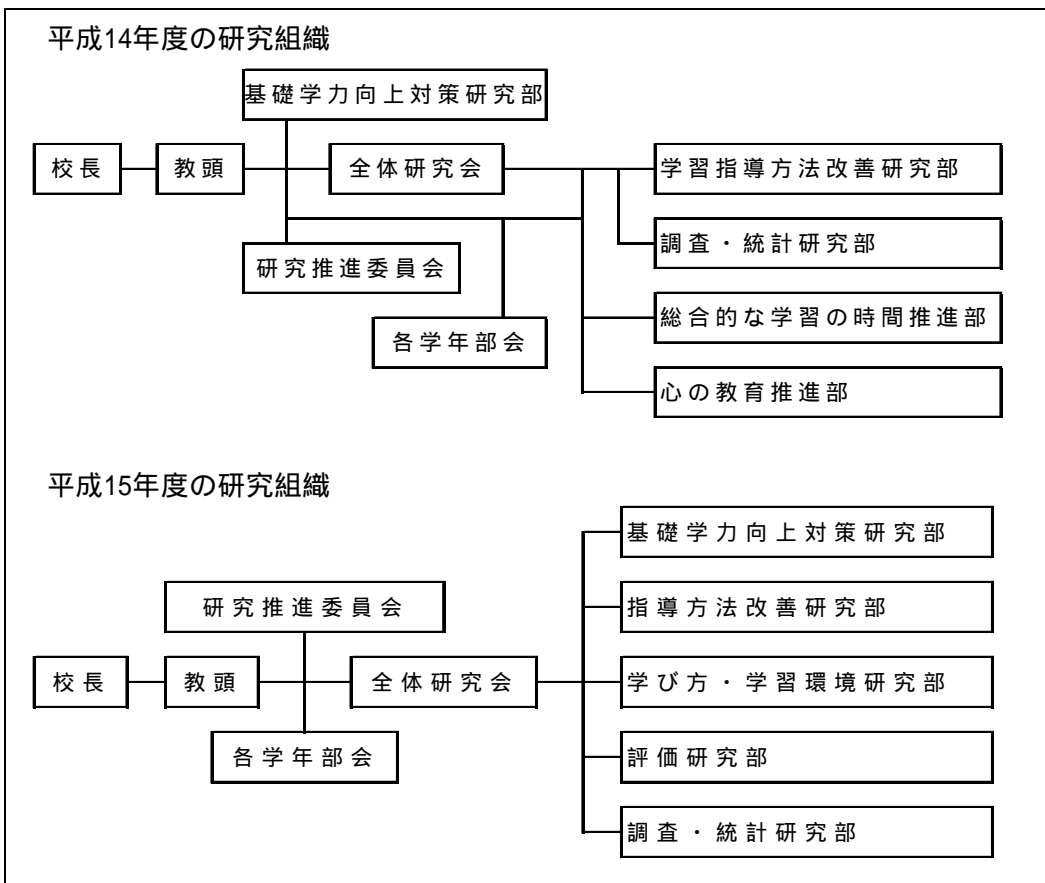
| | |
|--------|--|
| 平成14年度 | <p>テーマ 「生徒一人一人の確かな学力の向上」 ・基本的な生活能力や各教科を支える力（読む・書く・計算）の育成 ・各教科等の基礎的・基本的内容等の確かな定着 ・自ら学び自ら考える力などの生きる力の育成</p> <p>研究の見通し（仮説） 基礎・基本を精選し、基礎・基本を確実に身につけさせていけば、各教科の特性を生かし、生徒が主体的に集中して取り組める授業を創造していけば、生徒の学習に対して、適切な支援や評価を行い、生徒の学習意欲を高めていけば、生徒の「確かな学力」を高めていくことができるであろう。</p> <p>研究の内容・方法</p> |
|--------|--|

| | |
|--|--|
| | <ul style="list-style-type: none"> 基礎学力向上対策研究部 ・ P U T 学習の推進（国語・数学・英語のドリル学習） ・ 朝読書の充実（豊かな心の育成） ・ 学習の手引きの作成（学習の目的、授業の受け方、家庭学習） ・ 学習習慣・環境作り（学習の原則、学習訓練、教室掲示等） ・ 小・中連携の推進 学習指導方法改善研究部 ・ 授業研究 （主体的な学習や基礎・基本の確実な定着を図る授業の創造等） ・ 個に応じた指導の充実（きめ細かな指導の実践） ・ 指導と評価の一体化（評価規準・評価基準の作成） ・ 選択教科の時間の工夫・改善（効果的な補充・発展学習等） ・ 学習指導案の工夫・改善 調査・統計研究部 ・ 実態調査に関する調査統計 ・ 研究や実践に関する記録、保管、資料収集 ・ 予算に関すること 総合的な学習の時間推進部 ・ 総合的な学習の時間の工夫・改善（課題解決学習の充実） ・ 開かれた教育（外部人材の積極的な活用） ・ 進路指導の体系化 心の教育推進部 ・ 仲間づくり（構成的グループエンカウンター学習） ・ 学級づくり（個を生かす係・班活動・自主的な生徒の活動と評価） ・ 生徒会活動の充実 ・ ボランティア活動の推進（豊かな心の育成） |
|--|--|

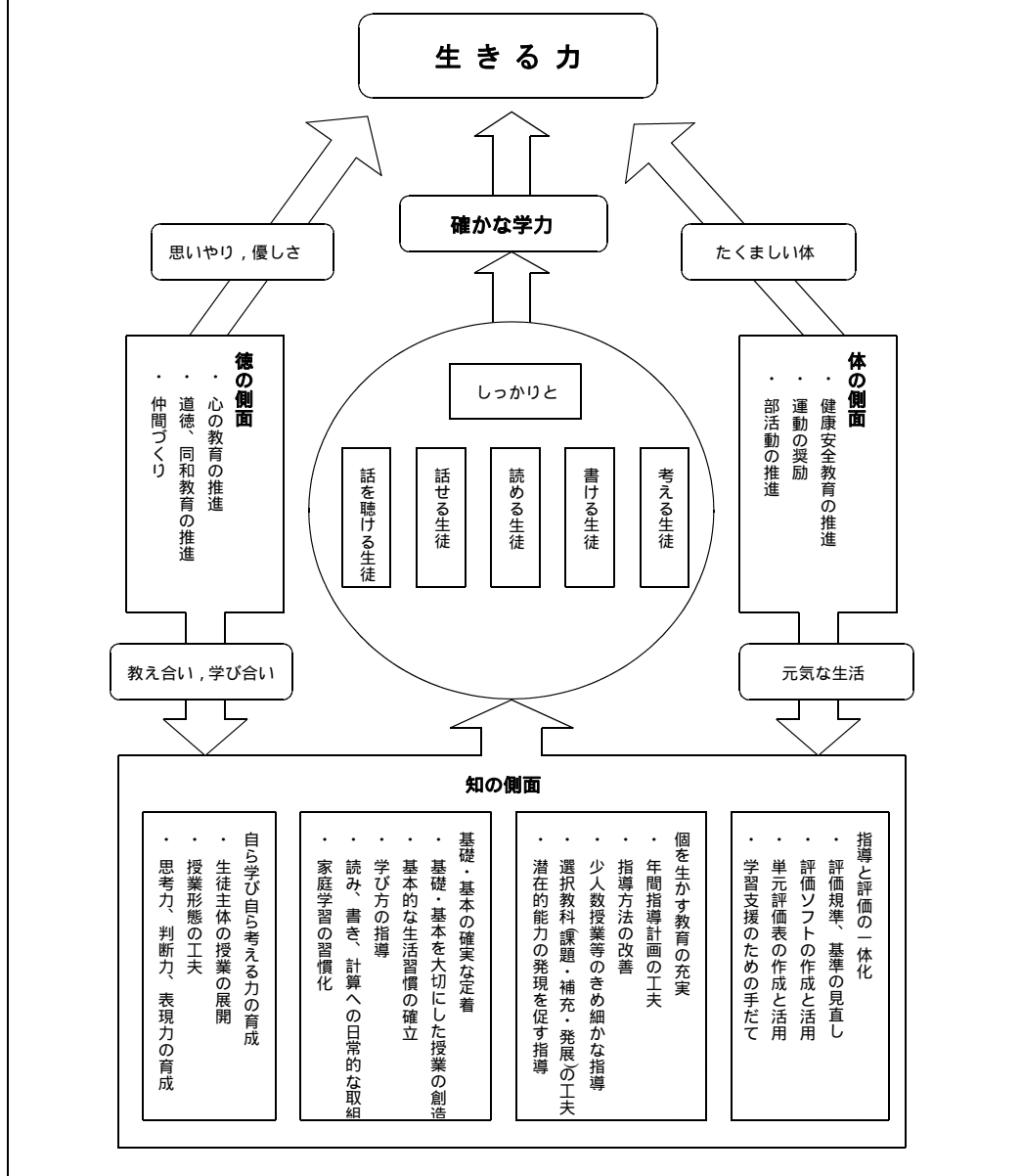
| | |
|--------|---|
| 平成15年度 | <p>テーマ 「生徒一人一人の確かな学力の向上」 平成14年度の研究を継続する。特に各教科等の基礎的・基本的な知識や技能、意欲、思考力、判断力、表現力等の向上をめざす。</p> <p>研究の見通し（仮説） 平成14年度に同じ</p> <p>研究の内容・方法 各教科における指導方法改善の研究を中心に取り組むため、テーマや研究組織を変更した。</p> <p>基礎学力向上対策研究部</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ P U T 学習の推進（数学と英語のドリル学習） ・ 朝読書の充実 ・ 家庭学習の奨励 ・ 小・中連携の推進 <p>学び方・学習環境研究部</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学習の手引きの作成 ・ 学習習慣、環境づくり（学習ルール3か条） <p>指導方法改善研究部</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業研究 ・ 効果的な年間指導計画・学習指導案の作成 ・ 指導方法の具体的な改善とその手だて ・ 総合的な学習の時間の工夫・改善 ・ 選択教科の時間の工夫・改善 <p>評価研究部</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 指導と評価の一体化（学年末評価シートの作成） ・ 研究や実践に関する記録・保管・資料収集 <p>調査・統計研究部</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 実態調査に関する調査・統計 ・ 研究や実践に関する記録・保管・資料収集 <p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 校時表・年間時間割・週時間割等の効果的な運用 ・ 心の教育推進（仲間づくり、学級づくり） |
|--------|---|

| | |
|--------|--|
| 平成16年度 | <p>テーマ 「生徒一人一人の確かな学力の向上」 これまでの研究を継続する。特に、各教科等の指導方法の改善を中心に取り組み、学力の向上をめざす。</p> <p>研究の見通し（仮説） 平成14年度に同じ</p> <p>研究の内容・方法 基礎学力向上対策研究部 ・家庭学習の奨励 ・小・中連携の推進 ・P U T学習の推進（数学・英語） ・朝読書の充実 学び方・学習環境研究部 ・学習の手引きの作成 ・学習習慣、環境づくり 指導方法改善研究部 ・効果的な年間指導計画・学習指導案の作成 ・指導方法の具体的な改善とその手だての研究 ・総合的な学習の時間の工夫・改善 ・選択教科の時間の工夫・改善 評価研究部 ・指導と評価の一体化（学年末・単元末評価シートの作成） ・学力検査に関する調査・統計 調査・統計研究部 ・実態調査に関する調査・統計 ・研究や実践に関する記録・保管・資料収集</p> |
|--------|--|

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究の構想



平成15年度の研究の成果及び今後の課題

1. 研究の成果

(1) 基礎学力向上対策研究部

PUT学習(数学・英語のドリル学習)

数学、英語のPUT学習の継続的な取組により、英単語の語彙が増し、計算力も向上してきている。

朝読書の充実

朝読書の実施により、学校生活を静かな落ち着いたある雰囲気の中で始めることができている。休み時間や給食の準備時間などにも読書をする姿が見られるようになった。また、遅刻の抑制にもつながっている。

NIE学習(新聞記事の利用)

わからない言葉には辞書を進んで活用する姿が見受けられた。さらに、宿題以外にも新聞記事を読むようになったという生徒も現れてきた。

家庭学習の奨励

各学級で、自学ノートを1日1～2ページ課題とした。また、国語科、英語科、数学科等の教科で毎日の課題を出した結果、課題の提出状況は、1年生が90%程度、2・3年生が80%程度であった。

小・中連携の推進

校区内の小学校の研究授業に参観したり、基礎学力向上の手だてについて話し合ったりして、研究を深めた。特に今年度は、数学科・英語科が小学校に出向き、TT授業を行った。

(2) 学び方・学習環境研究部

学習ルール3か条の作成

学習訓練的な、学習環境的な、学習能力的な基礎・基本を精選し、日々の授業で共通実践し、授業の充実度を高めている。また、あわせて学習ルール3か条を作成した。落ち着いた雰囲気の中で、授業に集中できる生徒が増えている。

(3) 指導方法改善研究部

習熟度別少人数授業やチームティーチングの効果

数学科の習熟度別少人数授業では、生徒たちのつまづきを発見することができるようになり、個に応じたきめ細かな指導ができるようになった。また生徒たちは、発表の機会や個別指導を受ける時間が増えたため、学習する喜びを感じることで、学習意欲を高めることができた。

社会科や英語科のチームティーチングでは、課題学習やグループ学習等で、グループや個に応じたきめ細かな指導ができるようになった。

効果的な年間指導計画の立案

全教科において、基礎・基本の確実な定着を図るために、基礎的・基本的事項を見直した年間指導計画を作成した。また、この年間指導計画には、評価規準や評価の方法、指導方法についても記入するようにした。この年間指導計画の作成により、単元ごとの基礎・基本の定着を図る手だてを実践することができた。

全教科における指導方法の工夫・改善

全教科において、次の観点（学習意欲を高める指導、個に応じた指導、自ら学び自ら考える力を育む指導、基礎・基本を定着させる指導）ごとに、日々実践している指導方法改善の具体的な取組と手だて、その成果と課題をまとめ、実践することができた。これをまとめることで、これまでの指導方法を見直すよい機会になった。

(4) 評価研究部

評価規準・基準をもとにした定期テスト問題の作成

評価規準・基準を作成することにより、各教科における基礎的・基本的な事項を再認識し、指導のポイントが明確になった。この評価規準・基準をもとに指導方法を検討し、授業を展開するので、テストのデータより、教師が自分の指導を振り返ることができた。

指導と評価の一体化

評価ソフトを作成し、各学期の評価に全教科で利用した。その資料から、各問題の到達状況を把握し、その後の補充授業に利用し、指導と評価の一体化を図ることができた。また、評価シートの利用により、発表や日ごとの頑張りや評価に反映するので、生徒の学習に対する意欲が高まってきている。

単元末の自己評価・希望コース調査とコース分け

単元末の自己評価の集計結果をもとにして、理解できていない小単元を把握し、再度補充指導を行うことができた。また、次の単元における習熟度別コースの希望を取り、生徒との話し合いを経て、個々に合った学習コースを決定することができた。

2. 今後の課題

- (1) 生活・学習アンケートやC R T、N R T等の諸検査をもとに、生徒の実態を正しく把握し、基礎・基本を確実に身につける手だてを更に研究し実践していく。
- (2) 自分の考えを積極的に述べる生徒が少ないので、発表しやすい学級づくりや仲間づくりに向けて、全校共通した取組を実践していく必要がある。
- (3) 4つの観点をもとに見直した具体的な指導方法を年間指導計画に単元ごとに位置づけることが必要である。また、本当に有効な指導方法であるか実践を通して検証していかなければならない。
- (4) 全教科において、基礎・基本の定着を図る指導を中心に研究実践に取り組んできた。数学科では、習熟別少人数授業による、個に応じたきめ細かな指導が実践され、指導体制も確立している。今後は、他の教科においても、一斉授業における個に応じた指導方法を検討していく必要がある。
- (5) 効果的な評価規準・基準表の作成に努めたり、単元ごとの評価表を作り、基礎・基本の目標達成ができたかを記録に残したりして、指導と評価の一体化を推進していく。
- (6) 家庭での平均学習時間が少ないので、家庭学習時間増に全学年で取り組み、学習習慣の定着に努めていく。
- (7) 校区内の各小学校と連携を密にとり、学習習慣や基礎学力向上の手だてを長期的・継続的に施していく。互いに積極的に学校訪問し、学習内容や教材研究の分野等で意見交換を行い、基礎学力の向上につなげていく。
- (8) 生きる力を育むためには、保護者や地域の方の理解や協力が必要である。年間行事や各教科の年間指導計画等について、学校便りやビューレット等を発行するなど積極的に情報提供していく。

学力把握のための学校としての取組

- (1) 生活・学習実態調査 H15.5.26 H15.12.1 実施
- (2) C R T 検査

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- (1) 研究実践公開(公開授業) H15.9.19 H16.1.23
- (2) 平成15年度伊万里市教育研究大会において実践発表
- (3) 県内・外の視察来校者への実践講話
- (4) H P 上で研究実践公開の案内や学力向上への取組の一端を公開
URL <http://www.saga-ed.go.jp/school/edq14351/index.htm>

- ~~~~~
- | | | | | |
|----------------------|---|--|--|---|
| 【新規校・継続校】 | <input type="checkbox"/> 15年度からの新規校 | <input checked="" type="checkbox"/> 14年度からの継続校 | | |
| 【学校規模】 | <input type="checkbox"/> 3学級以下 | <input type="checkbox"/> 4～6学級 | | |
| | <input type="checkbox"/> 7～9学級 | <input type="checkbox"/> 10～12学級 | | |
| | <input type="checkbox"/> 13～15学級 | <input checked="" type="checkbox"/> 16学級以上 | | |
| 【指導体制】 | <input checked="" type="checkbox"/> 少人数指導 | <input checked="" type="checkbox"/> T T による指導 | | |
| | <input type="checkbox"/> その他 | | | |
| 【研究教科】 | <input checked="" type="checkbox"/> 国語 | <input checked="" type="checkbox"/> 社会 | <input checked="" type="checkbox"/> 数学 | <input checked="" type="checkbox"/> 理科 |
| | <input checked="" type="checkbox"/> 外国語 | <input checked="" type="checkbox"/> 音楽 | <input checked="" type="checkbox"/> 美術 | <input checked="" type="checkbox"/> 技術・家庭 |
| | <input checked="" type="checkbox"/> 保健体育 | <input type="checkbox"/> その他 | | |
| 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 | <input checked="" type="checkbox"/> 有 | <input type="checkbox"/> 無 | | |